



1. 江戸時代の畝状遺構



[神奈川県教育委員会所蔵]

2. 江戸時代の石仏頭部



3. 縄文時代の調査状況



4. 縄文時代の集石

● 主な調査成果

江戸時代では、東西方向に溝を掘り区画しつつ、地形の傾斜がきつい場所を段切り状に掘削し、平坦な場所を造って土地を利用していた形跡が認められます。畝状遺構や土坑群などが耕作のために掘られています。また畝状遺構の一部からは、埋められた石仏の頭部が発見されました。

縄文時代には緩い斜面であったところに、蒸し焼き料理や湯を沸かした痕跡ではないかと考えられている「集石」が見つかっています。調査区全体では、縄文時代前期～後期の土器が破片になった状態で出土しており、当時の集落の外縁に該当する遺跡ではないかと推定しています。

- 調査期間 2019年11月1日～2020年11月15日
- 事業者 国土交通省関東地方整備局
- 調査原因 高速横浜環状南線建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
- 時代 近世、中世、奈良・平安、縄文
- 所在地 横浜市戸塚区原宿二丁目
- 遺跡位置 JR・市営地下鉄戸塚駅より南西約3.5kmの境川・柏尾川に挟まれた丘陵上

